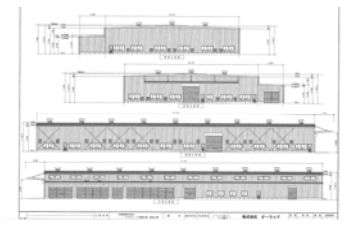


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	旭精機株式会社ストラスト・つば工	階数	地上1F
建設地	愛知県豊橋市賀茂町字天神前3番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条地域	平均居住人員	19人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	事務所工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2016年4月27日
敷地面積	17,370 m ²	作成者	永瀬浩幸
建築面積	2,989 m ²	確認日	2016年4月28日
延床面積	2,989 m ²	確認者	永瀬浩幸



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.3

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.6

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<p>④地域材の活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
1 階高のゆとり								
2 空間の形状・自由さ								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
1 空調配管の更新性								
2 給排水管の更新性								
3 電気配線の更新性								
4 通信配線の更新性								
5 設備機器の更新性								
6 バックアップスペースの確保								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
			Q3 室外環境(敷地内)					
1 生物環境の保全と創出	独自③		1.0	0.30	-	-	-	2.1
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制								
		BPI _m =0.65	4.0	0.01	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用								
			-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化								
			4.0	0.59	-	-	-	4.0
		集合住宅以外の評価(3a.3b)	4.0	1.00	-	-	-	
		集合住宅の評価(3c)	-	-	-	-	-	
4 効率的運用								
		集合住宅以外の評価	3.0	0.40	-	-	-	3.0
		4.1 モニタリング	3.0	1.00	-	-	-	
		4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	-	
		集合住宅の評価	-	-	-	-	-	
		4.1 モニタリング	3.0	-	-	-	-	
		4.2 運用管理体制	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水		節水便器・自動水栓小便器の採用。	3.4	0.15	-	-	-	3.4
			4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								
			3.0	0.60	-	-	-	
		1 雨水利用システム導入の有無	3.0	0.67	-	-	-	
		2 雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減			2.9	0.63	-	-	-	2.9
2.2 既存建築躯体等の継続使用			2.0	0.07	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	3.0	0.24	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		3.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.22	-	-	-	3.0
			3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避								
			3.0	0.68	-	-	-	
		1 消火剤	-	-	-	-	-	
		2 発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	-	
		3 冷媒	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
	①	ライフサイクルCO2概算値:79%	3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮								
			2.7	0.33	-	-	-	2.7
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を全く使用していない。	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制								
			2.0	0.25	-	-	-	
		1 雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	-	
		2 汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-	
		3 交通負荷抑制	1.0	0.25	-	-	-	
		4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮								
			3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								
			3.0	0.40	-	-	-	
		1 騒音	3.0	0.33	-	-	-	
		2 振動	3.0	0.33	-	-	-	
		3 悪臭	3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								
			3.0	0.40	-	-	-	
		1 風害の抑制	3.0	0.70	-	-	-	
		2 砂塵の抑制	1.0	-	-	-	-	
		3 日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制								
			3.0	0.20	-	-	-	
		1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	-	
		2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

旭精機株式会社ストラスト・つば輪工場 新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 旭精機株式会社ストラスト

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 作業環境に配慮し 空調換気を計画し、天井高さを高くした。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建築材料は☆☆☆☆の採用。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 3.1 階高のゆとりが3.9m以上の1F梁下=6.5m。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ピロティ(庇)を設け日陰の形成。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 LED照明の採用。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型器具(自動センサー小便器、節水便器)の採用。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 燃焼機器を全く使用していない。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。